

2017(平成29)年度

学生募集要項

松山大学大学院
医療薬学研究科
医療薬学専攻

博士課程

2017(平成 29)年度

松山大学大学院 医療薬学研究科 学生募集要項

アドミッションポリシー (入学者受け入れ方針)

本学の「校訓三実」である「真実」、「実用」、「忠実」の理念に則り、学部教育で培われた臨床薬学・医療薬学および基礎薬科学・生命科学を基盤として、高度な専門性をもって患者に最適な薬物治療を提供できる人材、薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる人材、さらに薬学研究者の視点から病態や薬物作用機序の解明に取り組める人材を養成することを目的としている。この目的を達成するために医療薬学研究科では、次のような大学院生を求める。

- 薬剤師としての基本的知識や実技能力を有している
- 科学的探究心をもとに臨床薬学・医療薬学分野における問題発見能力と問題解決能力の獲得に熱意を持つ
- 深い人間愛に基づいて医療を実践する熱意を持つ
- コミュニケーション能力に優れる
- 多様化する社会の要求に対して高い倫理観と柔軟性を持って対応できる

1. 募集人員

医療薬学専攻 博士課程 (第Ⅰ期・第Ⅱ期) 計3名 (一般入学試験・社会人入学試験)

2. 出願資格

本研究科に出願できる者は、出願までに志望する分野の研究指導教員と事前相談を行い、かつ次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 6年制薬学教育課程を卒業した者または卒業予定の者。
- (2) 薬剤師の資格を有し、大学院博士前期課程もしくは修士課程を修了した者。(4年制薬学部卒業者を含む)
- (3) 薬剤師の資格を有し、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すると認められる者。(4年制薬学部卒業者を含む)

(留意事項)

- ・ 出願資格 (1) の志願者については、薬剤師国家試験に合格していない場合は入学を取り消す。
- ・ 出願資格 (3) の志願者については、出願資格審査申請書および薬剤師研修歴・研究業績等報告書を提出し、事前審査を受けること。結果は本人宛に郵送にて通知します。

事前審査	期・種別	提出締切日	結果送付	提出先
出願資格審査申請書 薬剤師研修歴・ 研究業績報告書	第Ⅰ期 一般・社会人	2016(平成28)年 7月22日(金)	2016(平成28)年 8月22日(月)	薬学部 事務室
	第Ⅱ期 一般・社会人	2017(平成29)年 1月6日(金)	2017(平成29)年 1月12日(木)	

- ・ 出願資格 (1)～(3)において、社会人として入学できる者は、入学時に薬剤師として2年間以上の実務経験が必要である。

3. 試験に係る日程

専攻・課程	期・種別	出願期間※	試験日	合格発表日時
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2016(平成28)年 9月1日(木)～9月8日(木)	2016(平成28)年 9月25日(日)	2016(平成28)年 10月6日(木) 10時
	第Ⅱ期 一般・社会人	2017(平成29)年 1月16日(月)～1月24日(火)	2017(平成29)年 2月5日(日)	2017(平成29)年 2月9日(木) 10時

※出願期間中の窓口受付時間は9時から16時までとする。ただし、土曜・日曜・祝日は受付を行わない。郵送による場合は簡易書留郵便とし、出願締切日16時必着とする。

4. 出願手続

(1) 検定料 30,000円

- ・所定の用紙を使用し、出願締切日の15時までに、銀行から電信扱いで納入すること。
- ・一旦納入した検定料は理由の如何を問わず返還しない。

(2) 諸注意

- ・身体に障がいがあり、受験に際し特別の配慮を必要とする志願者は、出願開始日の1ヶ月前までに申し出ること。

(3) 出願書類等

- ・下表の書類を別添の封筒で持参・あるいは郵送すること。

提出書類	摘 要
イ 入学願書	本学所定の用紙 別表1の「研究指導教員」を参照すること。
ロ 薬剤師免許証のコピー	
ハ 受験者写真票等	本学所定の用紙
ニ 最終出身大学の卒業(見込)証明書又は修了(見込)証明書	厳封のこと。
ホ 最終学歴の成績証明書	厳封のこと。
ヘ 志望理由書	本学所定の用紙
ト 承諾書	出願時に在職中の者は、所属長の「承諾書」を提出すること。
チ 健康診断書	
リ 検定料振込控(写)	所定の用紙を使用し、30,000円を振込後、本人控えを複写して提出。

※出願書類及び記載内容に不備がある場合は受理することができない場合がある。なお、電話での確認や対応が可能な記載不備等については、連絡先として記載された電話番号に問い合わせることがある。

※一旦受付けた出願書類は返還しない。また、受理できなかった出願書類等は本学が責任をもって処分する。

(4) 事前面談

- ・出願を希望する者は、出願前に必ず希望する分野の研究指導教員(別表1)と相談すること。
なお、教員との連絡がつかないとき、又は教員が不明の場合は、薬学部事務室まで連絡のこと。

(5) 出願書類の提出先及び問い合わせ先

〒790-8578 松山市文京町4番地2 松山大学薬学部事務室

TEL 089-926-7193 E-mail: mu-yakugaku@matsuyama-u.jp

5. 選考方法

・選考は以下の試験結果および出願書類を総合して行う。

試験科目	試験時間
小論文（医療薬学に関するもの）	9：30～11：10（100分）
面接および薬学に関する口頭試問	11：30～

6. 試験場所

松 山 大 学 松山市文京町4番地2（試験会場は受験票にて案内する）

7. 受験上の注意事項

- (1) 各試験において、試験開始時刻の10分前には指定の教室に集合すること。
- (2) 受験に際しては、必ず受験票を持参すること。
- (3) 大学内へ自動車で乗り入れることはできない。

8. 合格発表

専攻・課程	期・種別	合格発表日時
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2016(平成28)年 10月6日(木) 10時
	第Ⅱ期 一般・社会人	2017(平成29)年 2月9日(木) 10時

※合格者については、学内9号館薬学部掲示板に掲示するとともに、合格通知書を本人宛に送付する。

9. 入学手続

(1) 入学手続期間

専攻・課程	期・種別	入学手続期間
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	2016(平成28)年 10月6日(木)～10月14日(金) 16時【必着】
	第Ⅱ期 一般・社会人	2017(平成29)年 3月2日(木)～3月10日(金) 16時【必着】

(2) 学費の納付(金額については「10. 納付金」を参照)

専攻・課程	期・種別	納付方法
医療薬学専攻 (博士課程)	第Ⅰ期 一般・社会人	入学金については、所定の用紙にて上記入学手続期間中(最終日は15時まで)に銀行から電信扱いで納入すること。 在学料及び実験実習料(前期分)については、3月上旬に郵送する所定の用紙にて2017(平成29)年3月10日(金)15時までに銀行から電信扱いで納入すること。
	第Ⅱ期 一般・社会人	所定の用紙にて、入学金、在学料及び実験実習料(前期分)を2017(平成29)年3月10日(金)15時までに銀行から電信扱いで納入すること。

※一旦納入した入学金は、理由の如何を問わず返還しない。在学料は、2017(平成29)年3月31日(金)(消印有効)までに入学辞退を届け出た場合、または入学取り消しとなった場合は返還する。なお、入学辞退届を直接持参する場合は、2017(平成29)年3月31日(金)まで(土・日・祝日は除く8時30分～17時)に薬学部事務室まで提出すること。

(3) 提出書類

住民票又は住民票記載事項証明書<原本>	1 通 (2017(平成 29)年 2 月以降の証明書日付があるもの)
カラー写真	2 葉 (1 か月以内に撮影したもの・サイズ 2. 5cm×2. 5cm)
誓約書・同意書、保証書	本学所定の用紙
卒業証明書もしくは修了証明書	1 通 出願時において「見込」の者は、2017(平成 29)年 3 月 22 日(水)までに提出すること。

※提出書類の詳細については、合格通知の際、別途案内する。

10. 納付金

	学外出身者	本学学部出身者
入 学 金	126,000 円	72,000 円
在 学 料 (年 額)	700,000 円 (納付は、前期 350,000 円、後期 350,000 円の分納とする。)	
実 験 実 習 料 (年 額)	200,000 円 (納付は、前期 100,000 円、後期 100,000 円の分納とする。)	

・委託徴収金

温山会終身会費 年額 5,000 円 (本学出身者を除く) を 4 年間に渡り、委託徴収する。

温山会とは、松山大学各学部、大学院、短期大学と、その前身である松山高等商業学校、松山経済専門学校、松山商科大学の卒業生を正会員とする本学の同窓会。

11. 長期履修制度について

- ・標準修了年限(4年)で修了することが困難な場合、長期履修制度(4年間の在学料で5~8年間履修)を願い出ることができる。詳細については、問い合わせのこと。

12. その他

(1) 奨学金制度

- ・日本学生支援機構奨学金制度、松山大学奨学金制度等に応募することができる。

(2) 個人情報の取扱いについて

- ・住所等の個人情報については、厳重な管理の上、本学からの連絡や文書等送付の場合のみ使用する。
詳細は、松山大学ホームページ (<http://www.matsuyama-u.ac.jp>) 個人情報保護に関する基本方針を参考にすること。

問い合わせ先
松山大学 薬学部事務室
TEL (089) 926-7193
FAX (089) 926-7162
E-mail: mu-yakugaku@matsuyama-u.jp

(別表1)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 授業科目と担当教員

科目区分		授業科目	専任教員等の配置
専門科目 (選択)	最適治療と実践薬学領域	天然物医薬品評価科学特論	岩村樹憲 教授、天倉吉章 教授
		製剤設計学特論	湯浅 宏 教授、山内行玄 准教授
		環境衛生薬学特論	牧 純 教授、舟橋達也 教授、 高橋 真 准教授 (愛媛大学農学部)
		腫瘍学特論	酒井郁也 教授、山口 巧 教授
		臨床薬理学特論	川崎博己 教授、相良英憲 准教授
		病院薬剤学特論	荒木博陽 教授、田中亮裕 准教授 (愛媛大学医学部)
		医療倫理学特論	山田富秋 教授 (人文学部)
		医療経済学特論	経済学研究科開講科目
		医療マネジメント特論	東淵則之 教授 (経営学部)
	疾病と薬の分子基盤領域	感染症薬学特論	中西雅之 准教授、玉井栄治 准教授
		分子神経科学特論	松岡一郎 教授、野元 裕 教授
		薬物作用解析学特論	古川美子 教授、中島光業 准教授
		医薬分子化学特論	河瀬雅美 教授、栗原健一 准教授
		医療分析化学特論	明樂一己 教授、見留英路 准教授
		分子生命科学特論	奈良敏文 准教授、畑 晶之 准教授
特別研究	薬学特別研究	川崎、牧、古川、河瀬、酒井、岩村、 明樂、天倉、中島、奈良、中西、畑、 山内、玉井、舟橋、相良	
基礎科目	科学英語特論 I	松岡、古川、河瀬、野元、明樂、奈良、 畑	
	科学英語特論 II	川崎、牧、湯浅、酒井、岩村、天倉、 山口、舟橋	
特別研修 (選択)	医療薬学分野	最適治療と実践薬学領域研修	川崎、牧、酒井、岩村、天倉、山内、 舟橋、相良
		疾病と薬の分子基盤領域研修	古川、河瀬、明樂、中島、奈良、中西、 畑、玉井
	臨床薬学分野	病院研修 I	愛媛大学医学部薬剤部
		病院研修 II	愛媛大学医学部薬剤部

(別表2)

松山大学大学院 医療薬学研究科医療薬学専攻 各分野の研究テーマ

領域	専門分野	研究指導教員	研究テーマ
最適治療と実践薬学領域	臨床薬学	川崎 博己 教授	生活習慣病における血管周囲神経機能の研究、およびこれに関連した治療薬物調査と治療成果の解析
		相良 英憲 准教授	1. 精神疾患モデル動物の情動と脳内報酬系に関する研究 2. 精神・神経疾患における臨床薬学的研究
	生体環境衛生薬学	牧 純 教授	国際保健衛生における難治性環境感染症に関する基礎・臨床・社会の学際的視座からの医療薬学研究
	病態生理学	酒井 郁也 教授	1. 癌細胞の病態解明と分子標的療法の開発 2. 細胞の増殖と分化制御機構の解明
	臨床薬化学	岩村 樹憲 教授	生物活性物質、特にオピオイド、セロトニン、ドパミン様物質の分子設計と合成
	天然医薬分子開発学	天倉 吉章 教授	天然物(生薬、漢方薬等)の品質・有効性・安全性評価研究と食薬および育薬的展開
	薬品物理化学	山内 行玄 准教授	1. プラズマ技法による薬物放出制御型DDSの開発 2. 難溶性医薬品の可溶化技術の開発
衛生薬学	舟橋 達也 教授	1. 細菌の鉄獲得機構に関する研究 2. 細菌の転写調節因子の分子機構解明	
疾病と薬の分子基盤領域	薬理学	古川 美子 教授	精神・神経疾患の病態に関与する因子の解析およびその発現を制御するシズ化合物の探索
		中島 光業 准教授	精神疾患および神経疾患モデル動物の樹立とその病態解析
	創薬有機化学	河瀬 雅美 教授	新たなフッ素導入反応を利用して、薬物や生理活性物質の薬効効果を向上または改変に関する研究
	医療分析化学	明樂 一己 教授	メタボノミクスまたは安定同位体を用いた病態解析・診断法ならびに薬効・毒性評価法の開発と応用
	生物物理化学	奈良 敏文 准教授	細胞膜機能、特にトランスポーターおよび受容体に関する基礎・応用研究
	病態生化学	中西 雅之 准教授	アフリカ睡眠病の原因原虫が発現する糖鎖の機能とその合成経路の解明
	理論薬品作用学	畑 晶之 准教授	薬物代謝の原子レベル機構と、それに基づく新規化合物の代謝物予測に関する理論的研究
感染症学	玉井 栄治 准教授	嫌気性細菌の病原因子およびその発病メカニズムの解明と新規の治療薬と治療法に関する研究	